

# 目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (行事編)
- 3 俳句 与謝蕪村 松尾芭蕉 篠原鳳作
- 4 あそびうた あめのつく漢字
- 5 早口ことば 「おやがも こがも まごがも」
- 6 かぞえうた 1個 1杯 1着 (みかん、ごはん、ワンピース)
- 7 今月の詩 あの町この町 野口雨情
- 8 たし算 4の段
- 9 ことわざ 煙あれば火あり 転ばぬ先の杖  
千里の道も一歩より始まる 備えあれば憂いなし
- 10 かけ算 5の段
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた おせんべやけたかな
- 13 今月のうた 島国日本
- 14 四字熟語 一心不乱 興味津々 自画自賛
- 15 おはなし ぶんぶく茶釜
- 16 童謡 ふじの山
- 17 イメージトレーニング 森のお友だち (第4話 探検その1)  
(イメージしてみましよう)
- 18 漢詩 夏夜 涼を追う
- 19 百人一首 猿丸大夫 凡河内躬恒 源俊頼朝臣 左京大夫道雅
- 20 復習コーナー
- 21 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

# 俳句

みずおけ 水桶に うなずきあうや 瓜茄子

よ さ ぶ そん  
与謝蕪村



しずかさや いわ 岩にしみ入る せみ こえ 蝉の声

まつ お ば しょう  
松尾芭蕉



あり 蟻よ のぼ バラを登りつめても ひ とお 陽が遠い

しの はら ほう さく  
篠原鳳作



あめ かんじ  
《雨のつく漢字》

あめのつく字を しってるかい

あめかんむりの下に書く

かたかなの「ヨ」で 雪

たんぼの「田」の字で で 雷

うえとした「下」という字で 霰

くも という字は 「云う」を書く

ほかにも 雹 霧 霰 霞 霜

あめのつく字は 天気に関係多い



# 今月の詩

## あの町まち この町まち

のぐちうじょう  
野口雨情

あの町まち この町まち 日が暮れるひ 日が暮れるひ  
今いまきた この道みち 帰りかえゃんせ 帰りかえゃんせ

お家うちが だんだん 遠とおくなる 遠とおくなる  
今いまきた この道みち 帰りかえゃんせ 帰りかえゃんせ

お空そらに 夕ゆうべの 星ほしがでる 星ほしがでる  
今いまきた この道みち 帰りかえゃんせ 帰りかえゃんせ



けむり ひ  
煙あれば火あり

煙けむりが立たっていれば、必かならず火ひがある。うわさが立たつのは何なにか理り由ゆうがある。



ころ さき つえ  
転ばぬ先の杖

つまずいて転ころばないように、杖つえをついて用よう心じんする。失しっ敗ぱいしないように、十じゅう分ぶん準じゅん備びしておくこと。



せん り みち いっ ぽ はじ  
千里の道も一歩より始まる

遠とい旅お路たびも最さい初しょの一いっ歩ぽから始はじまる。とてつもないことも、手て近ちかなところから始はじまること。



そな うれ  
備えあれば憂いなし

普ふ段だんから非ひ常じょう事じ態たいに備そなえて十じゅう分ぶん準じゅん備びしていれば、いざというときになっても心しん配ぱいがない。



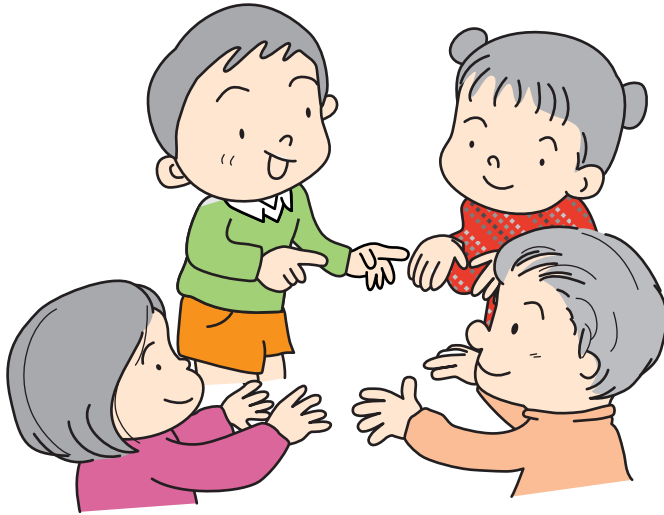
# なぜなぜ

- 1 たたけばたくほど、お年寄りに喜んでもらえるものなあに？
- 2 立っている時は見えないで、座ると見えるものなあに？
- 3 切ってもすぐのびて、ひっぱられると痛いものなあに？
- 4 白くてかたくて、口の中にあるものなあに？



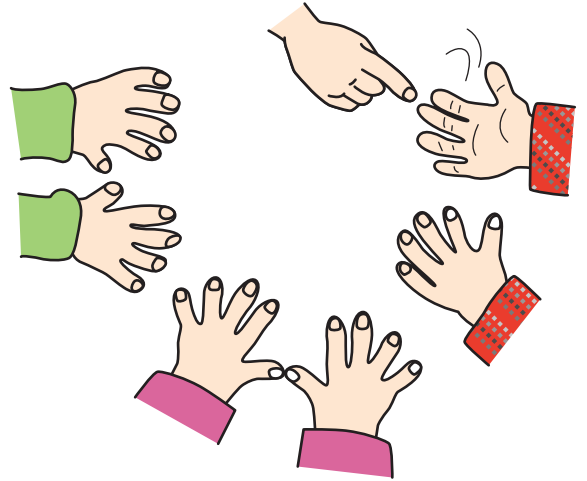
## 《おせんべやけたかな》

① お・せ・ん・べ や・け・た・か



みんなの手の甲を上にしてだす。  
リーダーがうたにあわせて  
一人一人の手をじゅんにさわる。

② な



「♪な」であたった人は、手を  
かえし、手のひらを上にする。

③ おせんべ やけたかな・・・

①～②をくりかえす。

手のひらをさされた人は、手を  
ぱくっとたべて、手をおろす。

さいごにのこった人がつぎの  
リーダーになる。





# 今月のうた

## 《島国日本》 しまぐに にっほん

にほん しまぐに たくさん たくさん しま 島がある

おお よっ しま ほんしゅう ほっかいどう きゅうしゅう しこく  
大きい四つの島は 本州 北海道 九州 四国

た しま じゅんばん  
その他の島を 順番に

ほっ ぽうりょうど えとろふ くなしり しこたん はばまいしよとう  
北方領土の 択捉 国後 色丹 歯舞諸島

ほっかいどう おくしり りしり れぶんとう  
北海道の 奥尻 利尻 礼文島

にいがたけん さどがしま  
新潟県の佐渡島

とうきょうと おおしま はちじょう みやけしま  
東京都は 大島 八丈 三宅島

ひょうごけん あわじしま かがわけん しょうどしま しまねけん どうご おき  
兵庫県の淡路島 香川県の小豆島 島根県の道後 (隠岐)

ながさきけん つしま いき ひらどしま  
長崎県は 対馬と壱岐と平戸島

くまもとけん あまくさしもしま あまくさかみしま  
熊本県の天草下島 天草上島

かごしまけん あまみ おおしま やくしま たねがしま  
鹿児島県の奄美大島 屋久島 種子島

おきなわけん おきなわじま いりおもてじま いしがきしま みやこじま  
沖縄県は 沖縄島に西表島 石垣島と宮古島

にほん しまぐに たくさん たくさん しま 島がある





いっしん ぶらん  
一心不乱

ほか ちゅうい ひと ころろ しゅうちゅう  
他のことに注意をそらさず、一つのことに心を集中  
させていること。



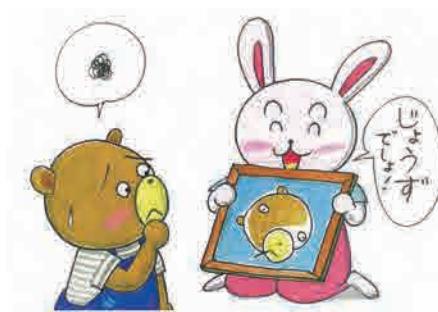
きょうみ しんしん  
興味津々

きょうみ たい  
興味がつきないさま。そのものに対して、あとから  
あとから興味がわくさま。

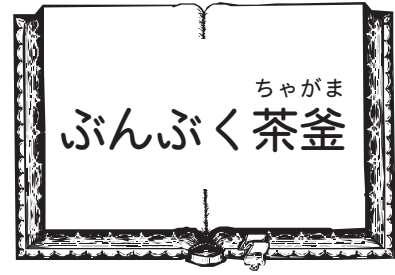


じが じさん  
自画自賛

じぶん か え じぶん じぶん じぶん  
自分で描いた絵を自分でほめること。自分で自分の  
ことをほめること。

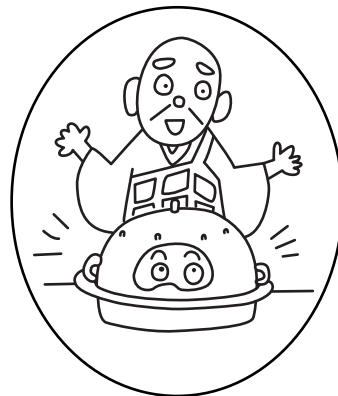


# おはなし



「ぶんぶく茶釜」は、たぬきが助けてくれた男にお礼をするお話です。お話を聞いた後で、質問にこたえてみましょう。

- 1 たぬきはなぜ古道具屋の男にお礼をしに来たのですか。
- 2 茶がまに化けたたぬきは、どうしてしゃべってしまったのですか。
- 3 小坊主が茶がまに化けたたぬきを火にかけると茶がまはどうなりましたか。
- 4 お寺から逃げたたぬきが男のところにまた現れた時、どのようなことを一緒にしようと言いましたか。



夏夜  
涼を追う

楊万里

夜熱依然として  
午熱に同じ  
門を開きて  
小らく立つ  
月明の中  
竹深く  
樹は密にして  
虫鳴く処  
時に微涼あり  
是れ風ならず

百人一首

奥山おくやまに

もみぢ踏ふみ分け

声聞こえく時ときぞ

鳴なく鹿しかの  
秋あきは悲かなしき

(猿丸大夫さるまるだゆう)

心こころあてに

折おらば折おらむ

置おきまどはせる  
初霜はつしもの  
白菊しらぎくの花はな

(凡河内躬恒おほしこうちのみつね)

憂う

人ひとかりける

初瀬はつせの山やまおろしよ  
祈いのらぬものを

(源俊頼朝臣みなもとのとしよりあそん)

今いま

思おもはただ

絶たえなむとばかりを  
人ひとづてならでいふよしもがな

(左京大夫道雅さきやうのだいぶみちまさ)



猿丸大夫